

慰 霊 の こ と ば

本日ここに、御霊のありし日の英姿を偲び、謹んで戦没者の御霊に対し慰霊のことはを申し上げます。

ここ沖縄本島南部の「米須の丘」に鎮まります、本県ゆかりの一万三千九百四柱の御霊は、先の大戦において、愛する家族の幸せと故郷の安泰を願いつつ、激戦の沖縄本島や遠い異境の南方諸地域で、苛烈を極めた戦いと過酷な環境に立ち向かわれ、戦禍に倒れました。

その崇高な御ところは、永く後生に語り継がれ、平和の礎となっております。今ここに、県民を代表して心から敬意と哀悼の意を捧げます。

戦後わが国は、国民一人ひとりが、御霊の尊い犠牲を胸に、たゆまぬ努力を積み重ねることで、今日の平和で豊かな生活を築き上げてまいりました。私たちのふるさと鳥取県でも、県民の不断の努力により、活力に満ち、平和で安心して暮らせる地域社会を実現してまいりました。

その一方で国外に目を向けますと、ウクライナではロシアによる侵略により多くの方が犠牲となり、尊い命が失われています。世界の平和が脅かされている今、戦争の悲惨さ、平和の尊さを改めて胸に刻まなければなりません。

沖縄本土復帰五十周年の今日、ここに眠る御霊の前にぬかずき、ふるさと鳥取県、ここ沖縄県、この国をさらに発展させるよう、鳥取県民一丸となって邁進してまいりますことを、ここに謹んでお誓い申し上げます。

結びに、謹んで御霊の安らかな御冥福をお祈り申し上げまして、慰霊のことはといたします。

令和四年五月十五日

鳥取県知事 平井 伸 治